



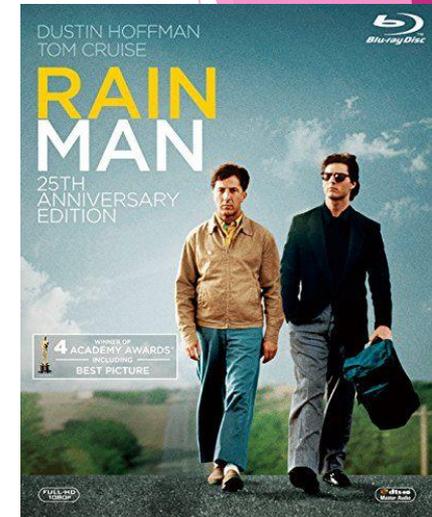
# 自閉症の特性・学習スタイル

自閉症 e サービス全国ネット  
2022-2023年度版



# 自閉症の人と かかわった時のイメージ

- 言うことを聞いてくれない
- 「ハイ」と返事をしたのにやってくれない
- 何を考えているかわからない
- 特殊な能力はあるが・・・
- こだわりがある、融通がきかない、わがまま
- ずっと同じことをしている
- 変な動きをする
- わざとやっている、無視する
- やる気がない、さぼっている
- 集団活動になじめない、一緒に遊ばない、付き合いが悪い
- すぐ怒る、急にパニックになる
- 暴れる、人を叩く、物を壊す・・・



映画『レインマン』（1988年）

# なぜ、自閉症を理解することが難しいか

- 知識・情報の不足とネーミングの問題
  - 心の問題、育て方、引きこもりという誤った理解・イメージ
  - どこに障害があるかよくわからない
  - 医学的な原因・メカニズムはまだよくわかっていない
- 多様な状態像
  - よくしゃべる vs 全く話さない、多動 vs 動かない
  - 高機能自閉症 vs 最重度の知的障害を伴う
- 私たちと「違う」ことが認識ができない、認められない
  - The Culture of Autism（自閉症の文化：ゲーリー・メジボフ）
  - Over 99% of people have heard of autism, but only 16% of autistic people feel the public understand them.（英国自閉症協会）
- 自閉症の人の立場から考えることができない
  - 私たちのほうから「歩み寄る」ことが大切（佐々木正美）
  - 自閉症の人たちとの共生へ



HP：灯台Online より

# 自閉症とは

- 中枢神経系の障害によっておこる発達障害
  - 生来性の遺伝的要因\*環境因子（化学物質など）
- 脳における情報の処理過程に違いがある
  - 脳機能の偏り
  - 学習スタイルの違い  
（ものの見方、捉え方、感じ方に違いがある）
  - うまく理解できない、うまく表現できない
- 自閉症は心の病気ではない、育て方が原因ではない
- 行動や認知の特徴から診断する
  - 国際的な診断基準



スティーヴン・ウィルシャー作  
『雨降りの午後のビッグベン (2008年)』  
ウィキペディアより

# 自閉症の学習スタイル

強み	苦手
顕在的学習 ルールの明確なもの 明示的な説明 ルーティンの使用	暗黙的（潜在的）学習 直感的な了解 般化
視覚的な情報処理	聴覚的な情報処理
細部への焦点 注意が固着しやすい	心の理論 社会的認知
限定的な興味 高められた動機づけ	実行機能 順序性、計画性と開始

- ★自閉症の学習スタイルにあわせて教える
- ★その人の言動には学習スタイルが関係している

# 自閉症スペクトラム

- ①社会性（相互的な対人交渉）の障害
- ②コミュニケーションの質的障害
- ③想像力の障害／こだわりの行動
  - 幅が狭く、常同的・反復的な興味・行動・活動
- 2歳～3歳ぐらいいまでに障害の特徴が明らかになる
  - 高機能自閉症：青年期・成人期になって診断されるケース

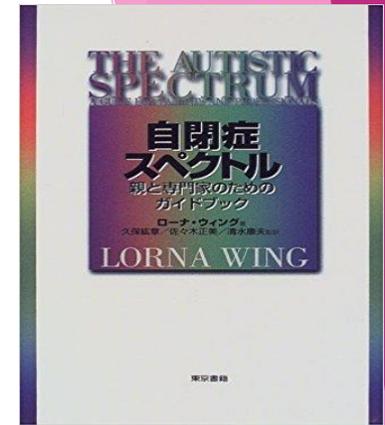
## ■ 自閉症スペクトラム：「三つ組」（ローナ・ウィング）

### ■ 広汎性発達障害

- DSM-IV（1994）診断と統計のためのマニュアル（アメリカ精神医学会）
- ICD-10（1990）国際疾病分類（WHO＝世界保健機関）

### ■ 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害：DSM-5（2013）

- A基準：社会的コミュニケーションと対人的相互作用の障害
- B基準：限局された反復する行動や興味（こだわり）、感覚刺激への過敏さ・鈍感さ



ローナ・ウィング著  
『自閉症スペクトル—親と専門家のためのガイドブック』（東京書籍）

# (1) 社会性の障害

- 人をあまり意識しない／過度に意識する
  - 共感性の欠如
  - 「心の理論」の問題 ex)サリーとアンの実験
- 人とのやりとり（相互交渉）の偏り
  - 孤立型、受動型、積極・奇異型
  - 友だちがうまく作れない、人間関係でトラブルがおこりやすい
  - アイコンタクトがないか奇妙
- 「形式ばって仰々しく関わる」（高機能）
  - 過度に礼儀正しく、ルールに厳格



# 3つのタイプ

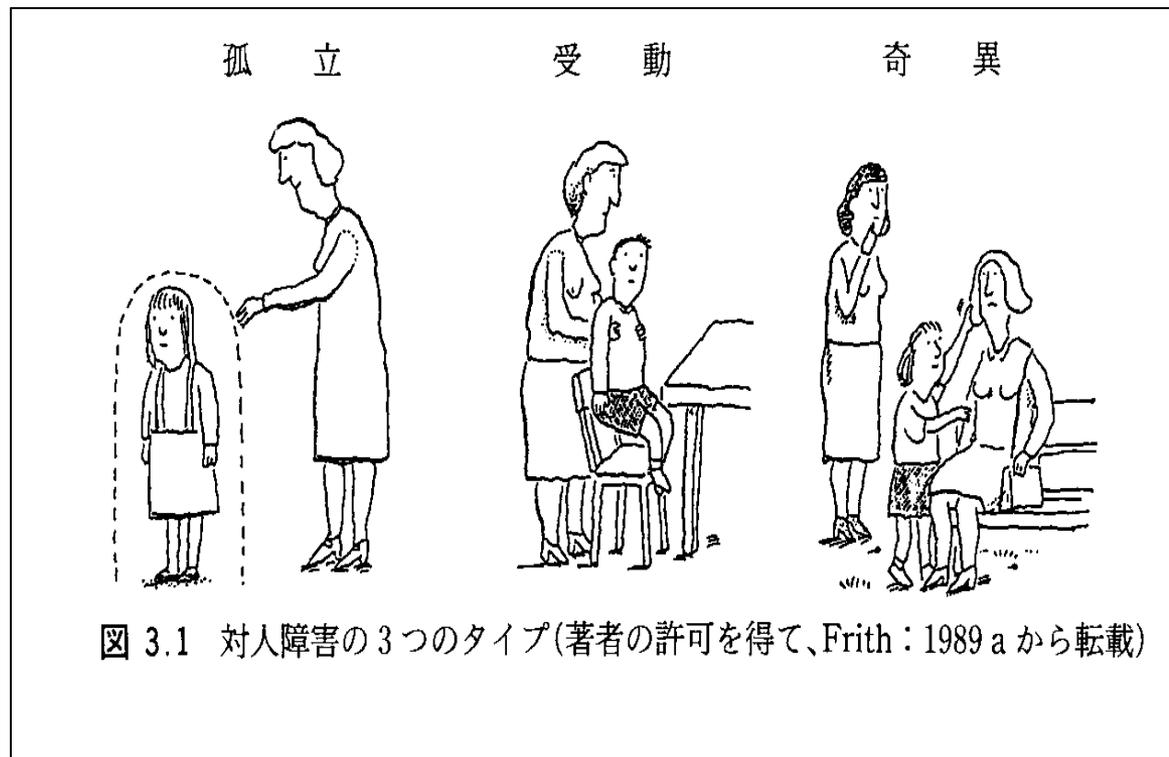
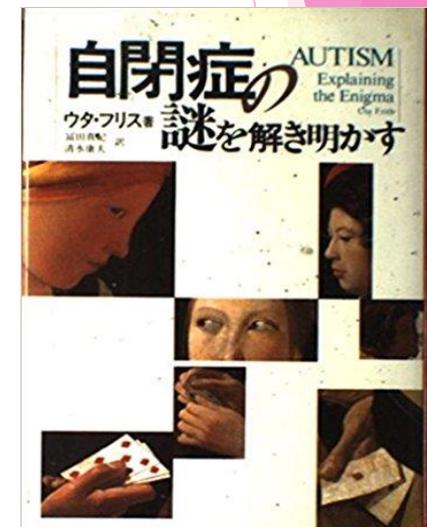


図 3.1 対人障害の3つのタイプ(著者の許可を得て、Frith：1989 a から転載)



ウタ・フリス著『自閉症の謎を解き明かす』（東京書籍）より

## (2) コミュニケーションの質的障害

- <表現の問題>
  - ことばの発達の遅れ、ことばがないケース
  - ことばがあってもコミュニケーションの道具としてうまく使えない
  - 非言語的コミュニケーションの使用の限定
  - 自発性・対人方向性の弱さ
- <理解の問題>
  - ことばの理解が困難、混乱しやすい
  - 文字は読んでも意味を理解できていない、字義通りの理解、偏った解釈
  - 目で見て理解する (Visual learner)
- <やりとりの問題>
  - 一方的、指示待ち
  - 会話が続かない、会話が楽しめない



# ことばの意味がわからない、 取り違える、文字通りの解釈

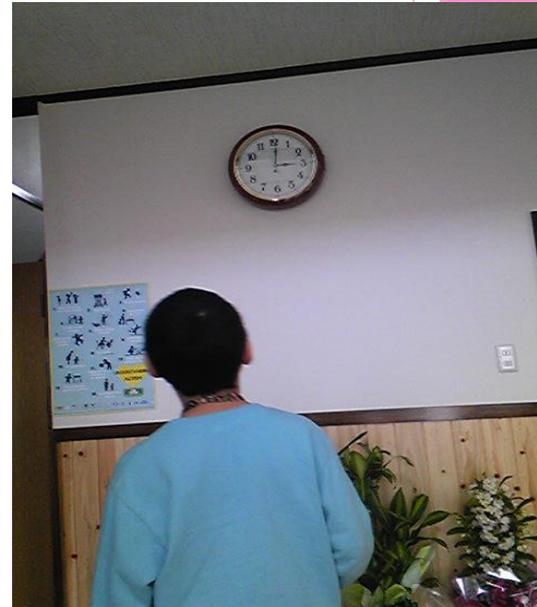
- 豊富な語彙で文法は間違っていないなくても・・・
- 字句の解釈の問題
  - 「試みる」→「心を見る」 「解脱」→「脱いで解決する」
  - 「ペットボトル」→「ペットが入ったボトル？」
  - 「静かに歩く」→口に指を当て「シーッ」と言いながら歩く
  - 「まっすぐ家に帰りなさい」「その話が一人歩きしないように」
- その場に応じた理解・対応ができない
  - 冗談や皮肉がわからない
  - 「このことは水に流すよ」  
→「水を流すのは僕の仕事です！」
- 命令形を決定的ルールと取り違える
  - 「人に会ったら挨拶をしなさい」



# (3) こだわりと想像力の障害

- 同じ行動を繰り返す
  - 反復的な感覚的体験 ex) 水遊び、トランポリン、ロッキング
  - 決まった手順や儀式
- 物の位置や向き、細部、特定のマークなどにこだわる
- 狭い興味に没頭する
  - 物や情報を集める、コレクション、研究活動
- イマジネーション（想像力）の乏しさ：経験していないことや目に見えないことをあれこれ想像することが難しい
  - 見えるものに引っ張られやすい（視覚優位）、細部に注目する
  - ごっこ遊び（見立て遊び）の少なさや幅の狭さ
  - 人の気持ちが読めない、視点を変えて捉えることが苦手
  - 時間の流れがイメージできない、段取りが立てられない
  - はじめてのことや急な変更で混乱する、不安が高まる





# 変化が見通せない

日課の急な変更、中止

物の位置や道順が変わる

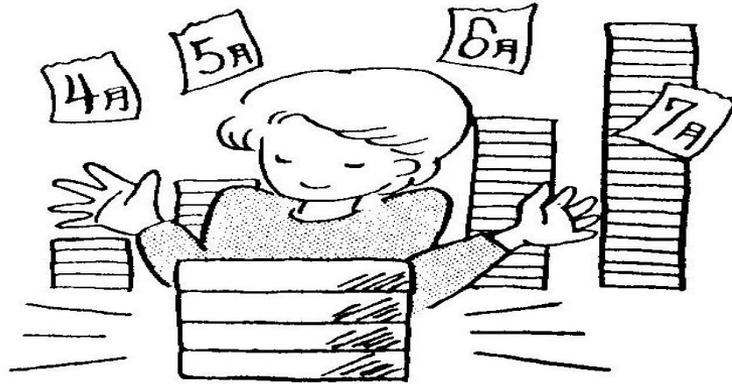
担当者の交代  
いつもと違う人

混乱・不安

複数または新しい情報の処理が苦手なため、パニックになったり、いつものやり方にこだわってしまったりする

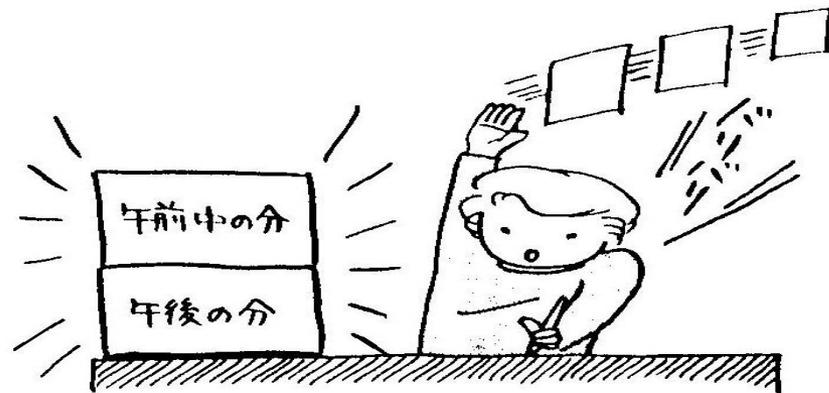


# 馴染むこと、見通しがあること



◀ 一定のパターン化された仕事に長時間たずさわると熟練度がたかくなります。

▶ どこまでやれば終わりか、ということがわかれば、最後まですることが出来ます。目で見てわかりやすい方法で示してあげるといいでしょう。

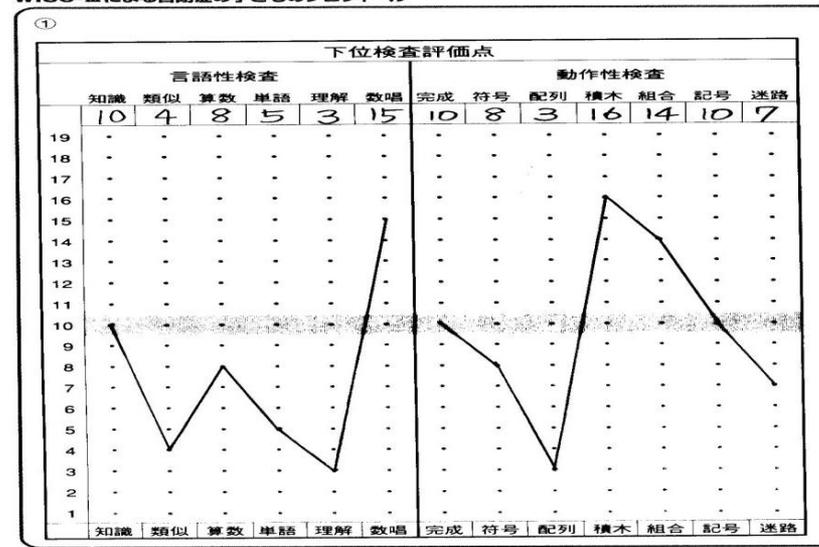


横浜やまびこの里『あなたの会社で働きたい』より

# その他の特徴

- 認知発達のアンバランスさ
  - でこぼこのプロフィール
  - 特殊なスキル cf.サバン症候群
- 体の使い方のおかしさ、ぎこちなさ
  - 不器用
  - カタトニア、チック症状の合併
- 感覚の異常、過敏さ・鈍感さ
- 摂食、睡眠など生理的機能の不調
- 気分の不安定さ、不安・恐れ
  - うつや強迫神経症との関連

WISC-IIIによる自閉症の子どものプロフィール



内山登紀夫ほか著『高機能自閉症・アスペルガー症候群入門』（中央法規）より

# 感覚の問題

子供の泣き声



衣類の肌触り



食べ物の食感や  
臭いに過敏



# 自閉症の基礎的知識

- レオ・カナーが1943年に論文を発表→「早期幼児自閉症」
  - ハンス・アスペルガーの症例報告（1944）
  - 歴史的変遷：最早期の精神分裂病→心の病/情緒障害→発達障害
- 1000人～100人に1～2人の有症率
  - 男女比は、男性が圧倒的に多い
- 他の障害・症状と合併しうる
  - 知的障害、てんかん（カナータイプでは約20%という報告がある）
  - うつや不眠、強迫症状に隠れている場合
- 生涯にわたる発達障害
  - ストレスが高まると自閉症特性が顕著になりやすい
  - 青年期・成人期になって初めて診断されるケース
- スペクトラム（連続体）である

# もう一度、自閉症の理解

- 「ことばを映像で理解した。映像にできないことばはとても理解しにくい」 (テンプル・グランディン)
- 「自閉症の人は、時間と空間の中に自分を位置づけることがとても難しい」 (ローナ・ウィング)
- 「自分の周囲の世界をよく理解できなくて、自分の意志や要求をうまく伝える方法がなく、まわりの世界の変化への見通しができず、対処の方法を考える術もない」 (パトリシア・ハウリン)



テンプル・グランディン  
(ウィキペディアより)



ローナ・ウィング博士  
(NASのHPより)

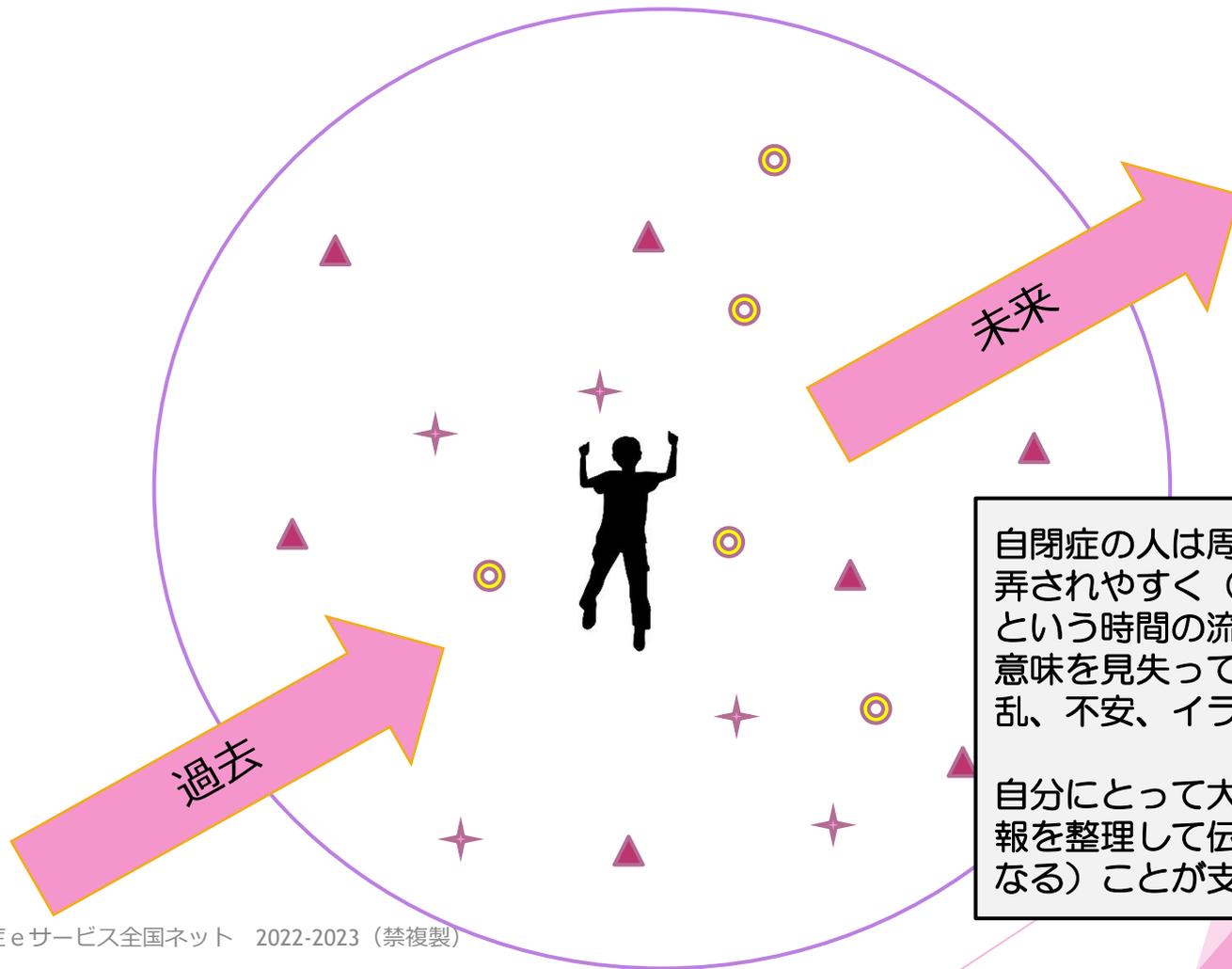
# 自閉症の人の立場に立つと

- 知らない世界で、訳のわからないことばで話しかけられたら・・・
- その不安を訴えたり、やりとりする方法がわからなかったら・・・
- 不快な刺激にいつもさらされたら・・・
- 突然叱られ、突然連れ回され、突然中止されたら・・・
- 今、ここで、何をしたいのかがわからなかったら・・・



NAS (英国自閉症協会) のHP  
Too Much Information より

# 構造化の必要性



自閉症の人は周囲の情報や刺激に翻弄されやすく（さらに、過去や未来という時間の流れもよくわからず）、意味を見失ってしまう。それが、混乱、不安、イライラにつながる。



自分にとって大事な情報・必要な情報を整理して伝える（わかるようになる）ことが支援の基本となる。

# 意味を伝える取り組み



# これまでのやり方を見直す

## (教育・学習方法の比較)

- 難しいこと vs 好きなこと
- 話し、説明 vs 視覚的、経験的
- 概念的 vs 具体的
- 失敗から学ばせる vs 正しい行動を教える
- 集団、自然な vs 1対1、コントロール
- 発達を指導する vs スキルを補う
  - 例) なぞり書き→ひらがな→漢字 vs 駅名は漢字で書ける
  - 例) お金の概念 vs 自動販売機の使用
- 社会的な賞賛 vs 終わりを理解する
  - 「終わり」の見通しがあることで、前向きに取り組める
  - ほめる・ご褒美は、具体的に、本人にとって手応えのあるものを

